

愛知工業大学における英語習熟度測定試験の試み
—OCRと統計処理言語SASを利用してEnglish Proficiency Test at Aichi Institute
of Technology Using OCR and Computer Language SAS
for Marking and Analysis吉賀憲夫†, 小田哲久††, 青木徹彦†††
Norio YOSHIGA, Tetsuhisa ODA, Tetsuhiko AOKI

Our first attempt at giving English proficiency test at our institute was tried in 1982 and we could get valuable data from the survey. The same attempt was carried out in 1990 using an optical character reader which had been introduced to our institute a few years before. The OCR could make it easier and faster for us to give and mark the examination. The data from the OCR were analyzed on a IBM computer with the use of SAS language. The both served us excellently.

We compared the examination results in 1982 and 1990 each other and found that the result in 1990 was better than the other by 6.4%. Then we chose ten fields of students' English knowledge and abilities for our study, such as pronunciation, spelling, sentence structures, reading and writing abilities and so on. The results in 1990 showed a significant increase of the students' understanding of sentence structures by 11.42% when compared with the last survey. In contrast to the remarkable result, however, vocabulary showed its modest increase. The same tendencies were also observed among the groups when we classified the result in 1990 into three groups, such as upper, middle and lower, in the order of students' test scores.

1. 愛工大における習熟度測定試験の歩み

本学、愛知工業大学の学生の英語基礎学力を測定し、本学の英語教育に生かすことを目的とし、英語

† 愛知工業大学 教養部 (豊田市)

†† 愛知工業大学 経営工学科 (豊田市)

††† 愛知工業大学 土木工学科 (豊田市)

習熟度試験を実施しようと考えたのはもう10年ほど前のことであった。共通の英語の試験を通して全学的規模での学生の英語力の把握することは今後の本学での英語教育に不可欠であると思ったからであった。英語クラスを利用し可能な限り多くの1,2年生からデータを取ることを考えた。被験者が2000人規模になることを予想して、採点と分析はコンピュータを利用することとし、計画に着手したのは1982年

春のことであった。

当時はまだパーソナル・コンピュータのはしりの時期であり、利用できるのは愛知工業大学計算機センターの汎用計算機であった。機種は IBM System 370 MODEL 138 であり、データの読み込みはカード読み取り装置3505-B01であった。マークシート読み取り装置は無く、どのように試験を施し、コンピュータに読ませるかが問題であった。しかしこの問題は本学の学習申告用ポーターパンチカードを流用することで解決した。当時は既にコンピュータによる学生の学習申告システムが稼働しており、学生は自分の受講する科目をポーターカード上に印刷された時間割表の該当する箇所を穿孔する仕組みになっていた。次にこのフォームにあわせ読み取りプログラムを作成しなければならなかった。

プログラムも一応完成し、英語科の専任教員及び非常勤講師の協力を得、1981年度入学生（以下、81年度生と呼ぶ）と1982年度入学生（以下、82年度生と呼ぶ）を対象に習熟度測定試験を実施したのは、1982年の12月であった。測定に参加した学生は81年度生1009名、82年度生1087名の合計2106名であった。実際の解答カードを使用しながら試験運転を重ね、微妙なプログラムの手直しを繰り返しながら最終データを得、集計、分析を終了したのは1983年の春であり、計画立案から1年を経ていた。

この調査で得たデータは後で章を改めて詳しく述べるが、(1) 学年全体の平均点、(2) 学科別平均点と得点の分布、(3) 50個の5項択一式問題の各々の正解率であった。またこれらのデータはすべてプリントアウトという形で出力された。これらの結果から当時の本学の学生の英語習熟度をおおまかに把握することができた。しかしこれらの結果は研究報告等の形で公表するまでには至らなかった。

第1回目の調査が完了し、さらに今回の第2回目の調査を行うに至った経緯は次の理由等のためであった。まず第1の理由として前回対象とした学生は中学校において週4日の英語教育を受けて来たが、今日の学生は中学において週3日の授業体制となつてからの入学者であるということ。2番目の理由として本学では入試の多様化が押し進められ、従来の筆記試験による入試の他、様々な推薦入試が採用されたこと等であった。これらの状況変化により、本

学学生の英語習熟度にどのような変化が生じたかを検証してみたいと考えたからであった。またもう一つの大きな理由に愛知工業大学計算機センターに光学式文字読み取り装置 (Optical Character Reader) が導入されたことがあった。東芝OCR (DP/9050) がそれである。

この10×11インチサイズのマークシート読み取りシステムには同計算機センター開発による採点、集計ソフトが組み込まれており、マークシートの一括読み取り終了時に個々の学生の解答データ、平均点、偏差値および分布が棒グラフでプリントアウトされる仕組みとなっている。このシステムを利用し、研究教育用としては既に英語授業等での小テストの採点等が行われている。本学の業務用としては前に述べた学生の学習申告用の旧システムに代わる物として稼働している。

今回の調査は8年前の結果とも比較できるようにまったく同じ試験問題で行うことにした。必ずしも前回の試験問題が学生の英語能力の全ての分野のチェックを可能にしているかどうかは問題が残るが、本学学生の英語能力の変化を見るという目的にとってはこれが最良と言えよう。

調査対象としては1989年度生（以降89年度生と呼ぶ）と1990年度生の両者としたかったが、実施時期と担当する英語クラスの関係上から今回は89年度生のみとすることにした。

試験の採点と分析は第2章で詳しく述べるがOCRを利用し、得たデータを大型計算機用の統計処理専用言語 SASで分析することとした。またグラフ等はデータをパーソナル・コンピュータ用ソフト、ロータス123に落とし作成することにした。

以上の要領で第2回目の試験が1990年12月の2週目から2週間かけ英語クラスで行われた。試験所要時間は35分で、試験終了後問題用紙は回収した。受験者数は993人であった。

2. 分析に用いた情報処理システム

2.1 マークシートの設計

マークシート用紙は、本学計算センターが標準として用意した書式を用いた。その書式は、169×229mmサイズ縦置き横書きで、学籍番号・氏名欄に続いて、80問分の解答欄が用意されている。各問への答

は、5項目ずつ用意されており、後述するOCR用の集計専用ソフトで採点する場合は、正解は5項目中の1項目に限定する必要がある。しかし、回答者が記入した情報は、学生氏名以外はすべて、OCR装置が符号化（文字情報化）した上で、磁気テープに移されるので、IBM汎用計算機上で独自プログラムを用いて処理をすれば、きめ細かな特殊採点も可能である。回答者は、学生番号はアラビア数字で、氏名は漢字で記入する。氏名は機械では読み飛ばす。各問への答は、該当欄へ斜線を引く。今回のテストでは、5項択一式の標準形を50問、用紙の頭から割り付けた。また、フェースシート項目用に用紙末尾の79問目の回答欄と80問目の回答欄を用いた。

2.2 OCR装置によるマークシートの読み取り

光学式文字読み取り装置（Optical Character Reader）として、本学計算センターの東芝製OCR、DP/9050を使用。本学計算センターにて開発された、テスト集計専用ソフトウェアによって、集計と磁気情報化を行った。処理は、マークシートからあらかじめ「正解」を読み込み、これと、個々の学生のマークシートの回答内容を比較して正誤判定と合計点の集計を行う。一人分の処理ごとに、その学生の採点・集計結果が漢字プリンター上に印刷されて行く。一連の採点処理は連続的に行われるが、処理の途中に読み取り等が発生すると、作業を中断して、操作者に判断を仰ぐようになっている。キーボードからの指示で作業は続行され、マークシートが空になるまで、採点処理が続けられる。採点結果は、磁気テープに記録される。専用ソフトの操作性は、幾度かの改良によって、大変使い易くなってきており、数時間の使用で、全員分の読み取りが完了した。ただし、後述するとおり、読み取り中の機械チェックを通過したものにもまだ誤りは含まれており、最終的には、原本にあたりながらCMS（Conversational Monitor System）上のファイルをエディタで直接修正した。

2.3 CMSファイルへの変換

OCR装置によってマークシートから読み取って磁気テープに記録された情報は、IBM汎用計算機3081システムの磁気テープ読み取り装置を通じて、磁気ディスク装置上のCMSファイルに変換される。

2.4 SASによる統計処理

統計処理専用言語SASによって、基本統計処理を行なう。SASは、統計処理パッケージ群を簡易言語に構成したソフトウェア体系であり、高度な統計処理も、わずかなコマンドで記述でき、また、世界的に広く使われてユーザーも多く、結果の信頼性が高い。また、本学に導入されているシステムでは、結果のグラフ表示も可能である。ただしSASによるグラフ化は、標準的な処理意外の処理をしようとするか、かえって面倒になる場合がある。今回も、部分的にSASのグラフ機能を使用した。文書化には、一旦結果をディスクケットに収録して、オフラインでパソコン上に移して、表計算ソフト、ロータス123のグラフ機能を利用した。

2.5 CMSファイルのチェックと修正

OCR装置が入力時に読み込んだ文字情報は、特に、書き方が乱雑であったり、硬い鉛筆を使用した場合、予想外の文字として読まれる。学生番号の数字は、別の数字に読まれている場合があった。各問への回答の斜線は、もしも正しく読み取られれば、特殊記号の「/」記号になっているはずであるが、それが、数字の1や7、あるいは英大文字の「I」、「J」、「X」、さらに、特殊文字の「{」記号等に読まれている場合があった。書き方が薄すぎて、空白になっている所もあった。また、5項目のうち、1ヶ所にしか打たれていないはずの斜線記号が、2箇所連続している場合等もあった。

今回は、これらをチェックするプログラムをSASで書いて、異常箇所を見だし、必ず原本に当たってそこに書いてある回答内容に修正した。修正が必要になった箇所は約50箇所、全応答の約0.1%のみである。それでも、このチェック・修正作業だけで、2人がかりでまる1日以上を費やした。

3. 81年度生と89年度生の比較

この調査のための試験は既に一度1982年の12月に行われており、また今回は前回と同じ12月に行うことにした。993人が受験したが、試験を実施したクラスには1987年度入学者や1988年度入学者の再履修

者も含まれていた。試験後直ちにこれら学生のマークシートは89年度生の答案と別にし、採点も別途行い、採点結果は担当クラスの英語教員に89年度生の成績と共に報告した。また個々の解答用紙に目を通し、明らかに遅刻のためほとんど手の着けてない答案若干枚は調査の対象から外すこととした。その結果、研究対象とする被験者は948人となり、これは1990年11月末時点での89年度生の2年生在籍者数1169人の81.09%であった。

習熟度測定試験問題（付録参照）は1982年に作成された。5項択一問題50問からなり、5問づつが1グループを形成し、各々が表1のようにそれぞれの分野に該当する。

表1 習熟度測定試験英語分野構成

グループ	問題番号	分野
1	1~5	発音
2	6~10	スペリング
3	11~15	不規則動詞
4	16~20	アクセント
5	21~25	英語5文型
6	26~30	語彙
7	31~35	英文法
8	36~40	前置詞
9	41~45	読解
10	46~50	英作文

採点の結果、平均点は100点満点中 81年度生では50.74点（標準偏差13.7点）、89年度生は57.14点（標準偏差15.3点）となり 6.4点増となった。81年度生と89年度生の各問題の正答率および英語分野グループ別得点率は表2の様になる

今回の成績は50項目中6項目を除きすべて前回は上回っている。逆に下回った箇所は16、17、19、26、28、37であり、それはアクセントの分野3、語彙の分野2、前置詞の分野1となっている。次に若干気づいた点を挙げておく。

- (1) 問10の誤ったスペリング “untill”を見つける問題は特にできなかった。

表2 1981年度生および89年度生の各問別の正解率(%)

No	81年度生	91年度生	No.	81年度生	91年度生
1	75.23	81.43	26	51.03	48.84
2	38.56	39.98	27	60.60	70.04
3	50.28	59.28	28	50.47	45.99
4	87.71	83.76	29	50.47	54.75
5	75.89	78.90	30	18.57	20.36
6	69.14	77.53	31	37.90	44.73
7	39.87	41.67	32	31.71	48.84
8	42.68	60.76	33	68.76	68.04
9	60.98	64.98	34	52.44	58.97
10	15.85	35.97	35	45.31	53.38
11	73.08	79.22	36	80.96	87.87
12	20.83	27.95	37	60.60	31.33
13	79.36	81.12	38	77.39	79.54
14	84.40	84.39	39	43.25	63.61
15	50.19	59.92	40	29.17	32.17
16	21.48	20.89	41	72.98	83.76
17	53.28	41.77	42	50.09	54.22
18	24.86	52.11	43	51.22	56.96
19	50.94	58.23	44	59.10	68.35
20	33.40	32.49	45	21.48	34.81
21	65.48	75.84	46	51.41	71.31
22	46.53	60.02	47	35.37	46.20
23	39.49	46.52	48	49.44	63.82
24	45.97	54.43	49	49.44	66.03
25	54.32	58.76	50	42.03	44.94

- (2) 問12の不規則動詞を捜す問題はcostを正解とした。ただし商業用語で「<原価や生産費を>見積る」という意味では規則変化となるが、高校までの課程ではこの用法では学習はしていないと思われる。問題としてはこの問は不適当だったかも知れない。誤ってmendを正解とするものが43.04%あった。
- (3) 問16のアクセントの問題はdenyが第二音節にストレス（アクセント）があることがしっかりと学習されていなかった。
- (4) 問30はもともと出来が悪かった。問題文をしっかりと読むと答えは名詞ではなく「状態」を示す言葉であることが解る。Pin (26.69%)、Needle (25.42%)、Sword (20.25%) という名詞を答えた者が大半であった。
- (5) 問32は前置詞を問う問題だが、prevent.... (from) は高校では必ず学習する。正解率が31.71%から 48.84%に大幅に伸びたが、出来て当

然であるとはいうものの、今回の学生の高校での学習を評価したい。

- (6) 問40は「～するやいな」という“on”が正解である。この“On ~ing”という形は高校でも学習するが、少々古くさい観がある。そのようなことも手伝ってか出来は良いとはいえない。

次に英語分野別に考察してみよう。表3とそのレーダーチャート、図1からも解るようにアクセントの分野は81年度生は 36.79%、今回は 41.10%と2

表3 英語分野別得点率 (%)

分野	81年度生	89年度生
発音	64.33	68.67
スペリング	45.70	56.18
不規則動詞	61.97	66.52
アクセント	36.79	41.10
英語5文型	50.36	59.11
語彙	46.23	48.00
英文法	47.22	54.79
前置詞	58.27	58.90
読解	50.98	59.62
英作文	45.53	58.46
平均点	50.74	57.14

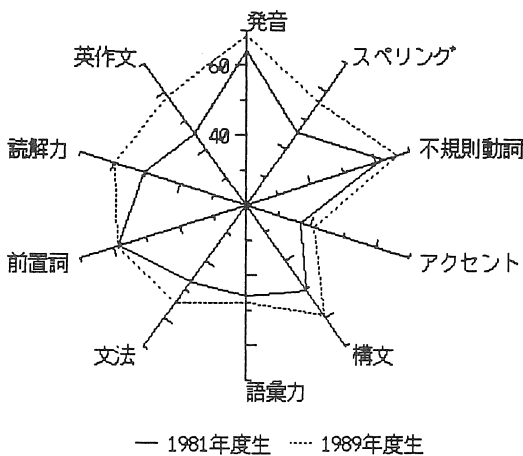


図1：英語能力別得点率図

回の調査を通じ全分野中最低の得点率となっている。これは英語学習において学習者がアクセントに十分の意識と注意を置いていないことを示唆している。しかしコミュニケーションとしての英語、特に会話等の必要性が叫ばれている現在、アクセント（ストレス）の正確な知識は単に必要であるだけでなく、その欠如はコミュニケーションの成立を極端に困難なものとするであろう。

語彙においても2箇所逆転現象が見られた。その結果、得点率は前回に比べて1.77%上回ったに過ぎなかった。語彙力のレベルでは前回とほとんど変化が無いと言えよう。逆転現象の起きた問28の鳥の名前はみな日本の学習用辞書では高校基本語彙とあることから、逆に正解率が良くなっても不思議はないと思われる。

今回かなりの伸びを見せたのがスペリング (+10.48%)、英語5文型 (+8.75%)、英文法 (+7.57%)、読解 (+8.64%)、英作文 (+12.93%)であった。特に英語5文型と英作文、すなわちこれらは構文把握という観点から外国語理解にあつては大変重要なポイントであるが、これらの顕著な伸びは読解力の向上を促したと考えられる。

これらの項目を簡略化させるために、この10の英語分野を表4のように4グループに再分類し、それぞれの年度生の比較を試みた。レーダーチャートにした図2も併せて掲げて置く。

ここでも明らかなことは構文把握力が前回に比較

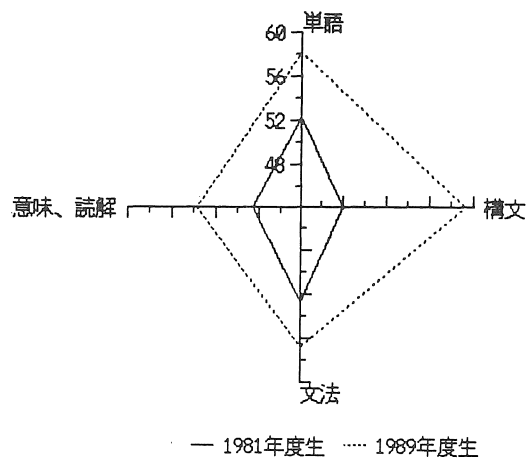


図2：英語能力別得点率図

表4 英語能力分野別得点率(%)

グループ	英語分野	英語能力分野	81年度生	89年度生
I	1	発音 スペリング 不規則動詞 アクセント	単語力	52.20%
	2			
	3			
	4			
II	5	英語5文型 英作文	構文把握力	47.95%
	10			
III	7	英文法 前置詞	文法力	52.75%
	8			
IV	6	語彙 読解	読解力	48.61%
	9			

して47.95%から 59.37%へと11.42%上昇したということである。ほかには単語力が6.12%、文法力が4.06%、読解力が5.2%の上昇となる。

4 89年度生のデータ分析

1982年度の調査ではデータはプリントアウトの形でしか得られなかったが、今回はOCRからのデータを磁気テープに移すことによって汎用計算機上での

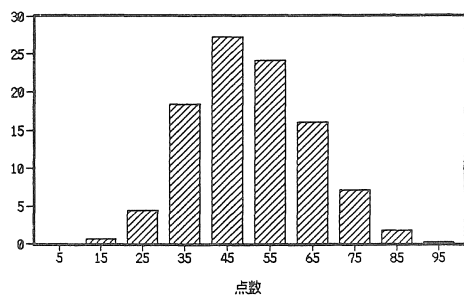


図3 a : 81年度生得点分布図

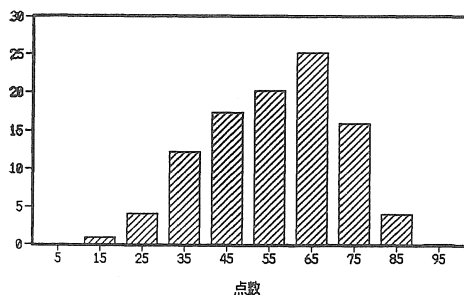


図3 b : 89年度生得点分布図

表5 1989年度生階層別分類表

区分	正解個数	100点換算	人数
下位	7~25	14~50	327
中位	26~32	52~64	298
上位	33~48	66~96	323

データ加工が可能となった。

図3 aは81年度生、図3 bは89年度生の得点分布であり、表5は有効データ 948人分を成績順に下位、中位、上位を全体の3分の1の人数 316人を目安として点数で3分割したものである。この表に従ってそれぞれの階層での習熟度の比較を試みた。その結果としての各々の英語分野別の得点率(%)を表6、図4に示した。

表6 階層別英語分野得点率(%)

英語分野	下位	中位	上位
発音	54.19	70.34	81.80
スペリング	39.39	56.44	72.94
不規則動詞	36.64	60.13	71.46
アクセント	31.80	39.13	52.32
英語5文型	36.09	62.15	79.63
語彙	31.19	47.58	65.39
英文法	39.82	52.08	72.45
前置詞	45.81	60.87	70.34
読解	40.24	63.29	75.85
英作文	33.70	61.21	80.99
平均点	38.89	57.32	72.32

この表から様々のことが読み取れるであろう。中位階層と上位階層との間では英文法(+20.37%)、英作文(+19.78%)語彙(+17.81%)に開きがある。また下位階層と中位階層では、英作文(+27.51%)、英語5文型(+26.06%)、不規則動詞(+23.43%)の差が顕著である。

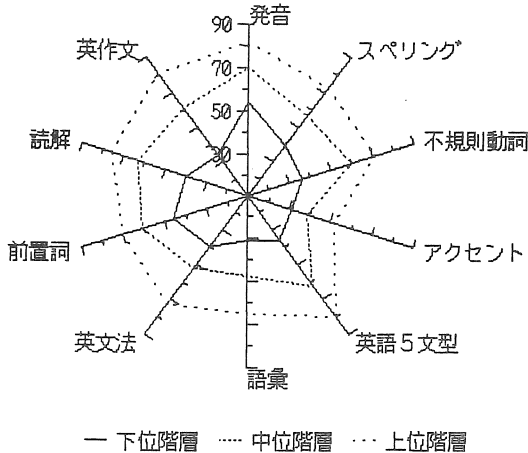


図4：階層別英語分野得点率図

次にこれを3章の最後で行った要領で再分類したものが表7、それを図にしたものが図5である。ここで特に指摘しておきたいことは、下位階層において構文把握力はこれら4能力の中で最も低い、中位、上位階層においては逆に一番高いことである。構文把握力は英語学力の増進に不可欠であり、このことから、下位英語習熟者に対する英語構文の概念の徹底が望まれる。

表7 階層別英語能力分野得点率 (%)

英語能力分野	下位	中位	上位
単語力	40.50	56.51	69.63
構文把握力	34.90	61.68	80.31
文法力	42.81	56.38	71.40
読解力	35.72	55.44	70.62

5 おわりに

2度目の調査と分析を終えて感じたことは、まず試験の実施が実施する側にも、また受ける側にも楽になったということである。8年前には先にも述べたように学習申告カードを流用したため、実施にあったっては教室で口頭による説明を必要とした。し

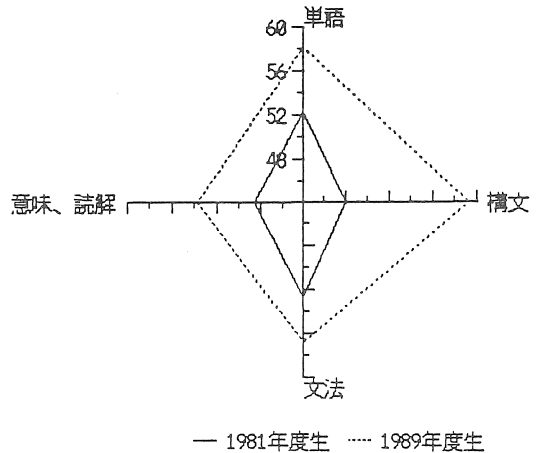


図5：89年度生階層別英語能力得点図

かし今回はOCRの導入によって既に学生が十分に慣れ親しんでいるマークシートが利用できたため説明はほとんど不要となった。しかし中には求められたマーク「/」の代わりに柀の全面塗りつぶしやその他の塗りつぶしも若干あったが、これは教室で気付いた時点で訂正させた。マークシートになって困ったことは学生に記入させるアラビア数字の学籍番号であった。この学籍番号がOCRでの処理中にしばしば読み取り不能となり、その度に機械が止まり、われわれに判断を求めてきたりした。また誤読もかなり生じ、これを修正するのにかなりの労力を費やすこととなった。しかし一度CMSファイルが完成すると、SASはわれわれの希望する処理を迅速にこなしてくれた。

習熟度測定の結果は8年前と比べ平均点で6.4点上昇したが、これは過去の18歳人口の増加に伴う大学入試の激化、本学に照らして考えれば河合塾、旺文社、福武書院等による偏差値の平均10ポイントの上昇からも予想されたものであった。しかし内容的には今回、英語構文の把握に顕著な伸びが認められたことにより本学の学生の英語力の質的な向上が確認できたことは意味深いと言えよう。これに対し語彙力に関してはほとんど変化は見られなかった。これを中学校教育における英語の週3日制の結果として直ちに結びつけることは無理であろう。単語力は急に改善されるということはなく、またなかなか成

果として表れにくいものであるということを考慮すればこの結果は納得できるものである。

最後にこの調査にあたりOCRやSASの使用法や疑問点に快く応じて下さった愛知工業大学計算機センター、偏差値等の情報を収集していただいた大学広報課、測定試験に協力くださった英語科および英語非常勤講師の方々にお礼と感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 平尾隆行：対話式計算システムの活用技術（江村潤朗監修：函解コンピュータシリーズ），オーム社，1984.
- 2) 奈良久・川添良幸・金井浩：SASへの招待，共立

出版，1989.

3) 関口義一：SAS入門，日本理工出版，1989.

4) 市川伸一，大橋靖雄（竹内啓監修）：SASによるデータ解析入門，東京大学出版会，1987.

5) 高橋行雄，大橋靖雄，芳賀敏郎（竹内啓監修）：SASによる実験データの解析，東京大学出版会，1989.

6) SASソフトウェア株式会社：SAS User's Guide: Basics（日本語版）version 5 Edition, vols. 1-3，SASソフトウェア株式会社，1986.

7) SAS Institute Inc., : SAS User's Guide: Statistics (ver.5), SAS Institute Inc., North Carolina, 1985.

（付録）

page 1.

英語試験（研究調査用）1990/12/commeng

（この試験問題用紙は試験後回収します。）

注意：あなたが入学許可された試験の記号を回答用紙の所定の箇所 79, 80 にマークして下さい（ただし、解らないときには記入しないで下さい。）

79. a. 一次入試 b. 二次入試 c. センター試験 d. 特別奨学生試験 e. 女子推薦
80. a. 普通科高校推薦 b. 工業高校特別推薦 c. スポーツ推薦 d. 名電校特別試験

1. 次の1～5には、下線で示した場所の発音が他のとは違うものが一つずつ含まれている。それを選べ。

1. a. mood b. loose c. hook d. food e. cool
2. a. blew b. grew c. dew d. threw e. crew
3. a. cloud b. shout c. pound d. courage e. doubt
4. a. wise b. pity c. prince d. signal e. principal
5. a. chemistry b. stomach c. beach d. school e. Christmas

2. 次の6～10には誤ったスペリングの単語がそれぞれ一つずつ含まれといる。それを選べ。

6. a. horse b. diferent c. hundred d. actor e. husband
7. a. house b. curtain c. handkerchief d. maneger e. pleasure
8. a. process b. tennis c. television d. heaven e. probrem
9. a. January b. March c. April d. Augast e. October
10. a. before b. untill c. important d. computer e. narrator

3. 英語の動詞には規則変化動詞と不規則変化動詞がある。次の11～15には、それぞれ一つずつ不規則変化動詞が含まれている。それを選べ。

11. a. visit b. return c. build d. note e. melt
12. a. mend b. fix c. call d. cost e. live
13. a. hold b. limit c. stop d. study e. carry
14. a. stir b. run c. develop d. try e. occur
15. a. wish b. seem c. consist d. hate e. drive

4. 次の16～20には、アクセント記号を付けた場所には、名詞、動詞などの品詞に関係なくアクセントの無いものが一つずつ含まれている。それを選べ。

16. a. comment b. chocolate c. contrast d. basket e. deny
17. a. creative b. necessary c. photographic d. interview e. architect
18. a. comfortable b. difficult c. international d. electricity e. influence
19. a. experience b. exit c. exist d. expense e. expose
20. a. increase b. worship c. ordinary d. superiority e. sunshine

5. 英語の文型には大別して(a) S + V、(b) S + V + C、(c) S + V + O、(d) S + V + O + O、(e) S + V + O + Cの5つがある。次の21~25の英文は、それぞれ上に示したa~eの文型のどれに当たるかa、b、c、d、eで答えよ。

21. That man in the green jacket is intelligent.
22. That man by the bookshelf teaches at university .
23. After much consideration, the committee appointed Tom chairman of the scholarship.
24. Some children from our town found the money under some stone.
25. The director of the lumber company gave his staff a vacation at the company's camp.

6. () の中に下のa~eより最も適する語を選べ。

26. () is a great body of water surrounding the land of the globe.
a. Lake b. Pond c. River d. Ocean e. Pool
27. () is an instrument for describing circles, with two legs connected at one end by movable joint.
a. Scale b. Circuit c. Circus d. Compass e. Robot
28. () is a kind of birds and some can be taught to repeat words.
a. Swallow b. Pigeon c. Eagle d. Swan e. Parrot
29. () is a quarrel usually between nations conducted by force.
a. Peace b. War c. Friendship d. Army e. Trade
30. () means "having sharp edge or point."
a. Keen b. Dull c. Pin d. Needle e. Sword

page. 2

7. () の中に下のa~eより、最も適する語を選べ。

31. I will buy the book, () expensive it is.
a. whatever b. whichever c. however d. whoever e. wherever
32. My mother's illness prevented me () attending the concert.
a. from b. for c. of d. out e. in
33. The birthday is the day () a person is born.
a. that b. which c. how d. when e. why
34. There is no rule () has some exception.
a. and b. but c. except d. so e. as
35. three years () since I met her.
a. passed b. have passed c. had passed d. pass e. will pass

8. () の中に下のa~eより、最も適する語を選べ。(同じ語を複数回使用してもよい)

36. The car was parked () front of the building.
37. What time is it () your watch?
38. He was proud () his success.
39. Every morning she hears music () the radio.
40. () my entering the room, they stopped talking.
a. on b. at c. in d. by e. of

9. 次の諺に最も近い意味を持つ英文を下のa~eから選べ。

41. 猿も木から落ちる。
a. Two are better than one. b. Such father such son.
c. It is no use crying over spilt milk. d. Not a moment is to be lost.
e. The wisest make mistakes.
42. 急がば回れ。
a. Fine feathers make fine birds. b. Haste makes waste.
c. Few words show men wise. d. There is many a true word spoken in jest.
e. There is no companion like money.
43. 類は友を呼ぶ。
a. You wash out ink with ink.
b. A woman's mind andn winter wind change often.
c. There is no hill without its valley.
d. The voice of the people is the voice of God.
e. Birds of a feather flock together.
44. 習うより慣れよ。
a. A merry heart lives long. b. Every man has his delight.
c. The end justifies the means. d. Custom makes all thing easy.
e. Cats hide their claws.
45. 一寸先は闇。
a. Great men show greatness in youth. b. Soon hot soon cold.
c. Strike the iron when it is hot. d. Love and knowledge live not together.
e. Laugh before breakfast, you will cry before supper.

10. 次の46~50の日本語の意味と同じになるように()内の1~5を並べ変えると、下のa~eのどれになるか記号で答えよ。

46. 遅れないように気を付けなさい。

Take (1. not 2. late 3. to 4. care 5. be).

a. 1-4-5-3-2 b. 4-1-3-5-2 c. 4-3-1-5-2 d. 2-3-5-4-1 e. 1-4-3-5-2

47. この本は僕には難しすぎる。

This book (1. for me 2. to read 3. is 4. difficult 5. too).

a. 3-1-2-5-4 b. 3-5-4-2-1 c. 1-2-3-5-4 d. 3-5-4-1-2 e. 2-4-3-1-5

48. この部屋ではタバコを吸わないで下さい。

Please (1. smoking 2. refrain 3. the room 4. in 5. from).

a. 2-5-1-4-3 b. 1-4-3-2-5 c. 2-1-5-4-3 d. 1-2-5-4-3 e. 2-4-1-5-3

49. ぼくのテレビは故障している。

There (1. wrong 2. is 3. my television set 4. with 5. something).

a. 2-3-4-5-1 b. 5-1-2-3-4 c. 2-5-1-4-3 d. 2-3-5-1-4 e. 3-2-5-1-4

50. 僕がそこにいたならなあ。

If (1. only 2. had 3. there 4. been 5. I)!

a. 5-2-1-3-4 b. 5-2-4-1-3 c. 1-2-5-4-3 d. 1-5-2-4-3 e. 1-3-5-2-4

(受理 平成3年3月20日)